

猿新聞

追い払いでは解決しない！

なぜ、野生動物が人里に出没するようになったのでしょうか。

今、中山間地域は高齢化、過疎化が急速に進み

野生動物に対する抵抗力が極端に減少しています。

荒廃しそれに加え獣害による耕作放棄地が増加

し、野生動物の生息域を広げています。

これからは、追い払いや柵ばかりでなく、自然の

撲滅にかなつた、野生動物との棲み分けを真剣に

考えなければなりません。

棲み分けを徹底させて

いくためには、

平成になる前頃までは、

名張付近の野生サルの生

息地は香落渓付近一帯で

他では殆ど見かけないこと

はありませんでした。

香落渓一帯は自然の恵

みが豊かでサル達の格好

の棲み家となつていて、

人里へは決して下りてくる事はなく、棲み分けが

確立していました。

然し、近頃では棲み分

が崩壊し頻繁に集落へ入

込み果樹や畑の野菜類を

荒らしまくり、最初は人

を見ると逃げておりますが、最近は逆にサルの方が威嚇するまでの事態が起っています。



編集・発行
山村 準
tel:0595-63-1725
Email:
jyun.y@asint.jp

獣害駆除として捕殺された野生動物は、過去に類を見ない多数に及んでいます。

○生息地や周辺の環境管理は適切か？。

（写真）整備された緩衝

帯、一部では羊の放牧も

されている。いずれも東

近江市にて）

で完全」という特効薬は

ありませんが、野生動物

と人の生活域との棲み分

けを真剣に考えるべき時

が来ている様に思います。

ます。見方を変えると野

生の保護につながります。

獣害対策には、「これ

で完全」という特効薬は

ありませんが、野生動物

と人の生活域との棲み分

けを真剣に考えるべき時

が来ている様に思います。

獣肉の利活用、鉄道被害

などの事例について集落

代表者、行政、JR社員、

シェフ、それぞれの立場

から講演されています。

「野生獣による農林水

産物被害」を県民全体で

少を県民全體でとり組ま

なければなりません。

以下、講演内容を抜粋。

「森林における被害

状況および対策につ

いて」

植林から30年間の育林

で補助金を活用しても1

町歩あたり100万円の

自己負担。木材価格は下

りますが、毎年開催

されています。

（写真）整備された緩衝

帯、一部では羊の放牧も

されています。

シカの捕獲数について、

銃による1人1日当たり

の捕獲数の上限を無制限

にするなど。大幅な規制

緩和がなされています。

捕獲獣は食材として利

用されています。ケースは少

なく、適正に捕獲し有効

活用を奨励しています。

「ミュゼボンヴィヴァ

ン」のシェフも『駆除さ

れた鳥獣の有効利用は料

理人の役目である』とも

言われています。

「ミユゼボンヴィヴァ

ン」のシェフも『駆除さ

れた鳥獣の有効利用は料

理人の役目である』とも

言われています。

これまでの繰り返しでは

は、将来的木材資源の確

保、多面的機能の発揮、

地域環境の維持が困難。

林業は50年、100年と

息の長い産業だからと言つ

て今までの繰り返しでは

は、将来的木材資源の確

保、多面的機能の発揮、

地域環境の維持が困難。

薄れ、植林後の手入れが

されないばかりでなく、

植林したとしても

状況、植林したとしても

は、将来の木材資源の確

保、多面的機能の発揮、

地域環境の維持が困難。

は、将来の木材資源の確

保、多